

「激烈に」書け！

自分の意見に確信をもち、自分は新しいものを世に提供しているのだと考えている人はだれでも、「激烈に」書き、また自分の見解をあざやかに言いあらわすように書くものである。ただ二道かけることに慣れている連中だけが、どんな「激烈さ」ももちあわせないのだ。そういう連中だけが、きのうは『ラボーチャヤ・ムイスリ』の激烈さをほめながら、きょうは同紙の論敵を「論戦の激烈さ」の点で攻撃するようなまねができるのである。

第五巻 なにをなすべきか？ P410~411 1901年秋～1902年2月に執筆
コメント 「激烈に」書け！

自分の感性のなさを他人のせいにするな

ロシアの労働者が、人民にたいする警察の野蛮な取り扱いについて、異宗派征伐や、農民の笞打ちについて、検閲当局の無法行為や、兵士の拷問や、まったく罪のない文化的企画の迫害などについて、まだあまりその革命的積極性をしめしていないのは、なぜだろうか？ それは、「経済闘争」が彼らをこれらの問題に「突きあたらせ」ないためではないのか、これらの問題があまり「目に見える成果」を「約束」せず、あまり「明確なもの」をあたえないためではないのか？ そうではない。くりかえしていうが、そのような見解は、自分の罪を人になすりつけ、自分自身の俗物根性（ならびにベルンジュタイン主義）を労働者大衆になすりつけようとするにほかならない。われわれは、これらすべてのいまわしい行為の、十分に広範な、あざやかな、すみやかな暴露をまだ組織できなかったことについて、自分自身を、大衆の運動にたいする自分のたちおくれを、責めなければならない。

第五巻 なにをなすべきか？ P441

コメント

敵（資本家階級）が、私たちにボディーブローの連打を、カウンターパンチをくりかえし加えているのに、指をくわえて「これらすべてのいまわしい行為の、十分に広範な、あざやかな、すみやかな暴露を」組織せずに、“大衆はエネルギーがない、今はじっと我慢しなければならない、それが革命的楽天性だ”などとノ一天気なことを言って**自分の感性のなさを他人のせいにするのは、弁証法の‘べ’の字も理解できない俗物である。**

暴露もせずに行動を呼びかけるな！

また大衆に行動を呼びかけるということについていえば、これは、精力的な政治的煽動がありさえすれば、いきいきとした、あざやかな暴露がありさえすれば、ひとりでに生じる事がらである。だれかを現行犯でとつかまえ、これに即座に万人のまえで、またいたるところで罪の焼印をおすということは、それだけでどんな「呼びかけ」よりも有効であり、ときにはだれがいったい群衆に「呼びかけた」のか、まただれがいったいあれこれのデモンストレーションの計画等々を提出したのか、あとになっては決めかねるくらいに、その効果は大きい。呼びかけ——一般的な意味ではなくして、具体的な意味での——は、行動の現場でしかできないことであり、また自分自身、即座にその場へ出ていくものにしかならないことである。だが、われわれの仕事、社会民主主義的評論家の仕事は、政治的暴露と政治的煽動をふかめ、ひろめ、そしてつよめることにある。

コメント 暴露もせずに行動を呼びかけるな！

口先だけの「政治家」にならないために

住民のすべての階級のなかで活動するための基盤はあるだろうか？ この基盤が見えない人も、また、その意識性において大衆の自然発生的高揚にたちおけているのである。……もしわれわれが、ありとあらゆる不満の現れを利用し、たとえ萌芽的な抗議の片影であってもそのすべてをよせあつめてそだてあげることが、自分の任務であることを自覚しないなら、われわれは口さきだけの「政治家」であり、社会民主主義者であるだろう（事実こういうことはきわめて頻繁に見うけられるが）。……無権利や専横に不満をいだいていて、したがってまた、もっともさしせまった一般民主主義的な必要の表現者である社会民主主義者の説教を容易にうけいれることのできる人々やグループやサークルが存在しないような住民階級を、ただ一つでもあげることができるだろうか？ そして、住民のすべての階級や層のなかで社会民主主義者が行うこの政治的煽動を具体的に心におもいうかべようとのぞむ人々には、われわれは、広い意味での**政治的暴露**こそそのような煽動の主要な手段（もちろん唯一の手段ではないが）であることを指摘しよう。

政治的暴露のためのこのような理想的な聴衆は、ほかならぬ労働者階級である。労働者階級は、全面的な、生き生きとした政治的知識を、なによりもさきに、またなによりも多く、必要としており、——この知識を積極的な闘争——たとえその闘争がなの一つ「目に見える成果」を約束しなくとも——に転化する能力をもっとも多くもっている。また**全人民的暴露**のための演壇になれるのは、全国的な新聞だけである。「現代のヨーロッパでは、政治的機関紙なしには、政治運動の名に値いする運動は考えられない」。そして、この点ではロシアもまた、疑いもなく現代ヨーロッパにふくまれている。出版物はわが国ではすでにずっとまえから一勢力になっている。

コメント

「もしわれわれが、ありとあらゆる不満の現れを利用し、たとえ萌芽的な抗議の片影であってもそのすべてをよせあつめてそだてあげることが、自分の任務であることを自覚しないなら、われわれは口さきだけの「政治家」であり」、口さきだけの社会民主主義者（共産黨員）である。

私たちは「政治的暴露のためのこのような理想的な聴衆」、「ほかならぬ労働者階級」を組織することが「自分の任務であることを自覚しない」口さきだけの「政治家」、選挙の時だけオウムのように「共産党」、「共産党」と叫ぶ、口先だけの「共産黨員」になっ

てはならない。そして、全国的政治機関紙＝赤旗は、全人民的暴露のための**演壇**として、積極的な役割をはたさなければならない。